

---

## 獣医コミュニケーション研究会会報 第3号 (2023)

---

1. 巻頭言
2. 報告
  - ・2022年 年次大会
  - ・獣医師会雑誌コラボウェビナー
3. 事務局からのお知らせ
  - ・行事予定
  - ・総会議事録

### 1. 巻頭言

早いもので会報第3号です。さて、2022年度の大きな動きとして、10月から第2期(～2025年10月14日)の役員による体制となりました。どなたも継続されたため第1期と同じ顔ぶれであり、運営上の変化は生じませんが、初めて役員選挙(信任投票)を経たという点で大きな違いがあります。規約施行当初役員はあくまで本人の手揚げで決まったのに対し、今度は公式な選任プロセスによるものですから、会員の皆さんに認められた役員が運営に携わるということになり、社会的信用も増すと考えられます。実際のところ、「走りながら服を着ろ」「おのおの志のままに生きよ」「同時多発」のモットーにもとづき、それぞれが自由に活動する特性上、役員がいろいろと決めていくというわけでは決してありませんが、事務的に必要なものごとを執り行う、対外的にはなくてはならない役割です。役員一同、第2期を無事に満了できますよう、皆さまよろしく願いいたします。

2022年度の具体的な活動にも触れておくと、なかなかまだコロナ禍で油断のできない状況ではありましたが、年次大会では久しぶりの現地開催にこぎつけることができました。愛玩動物看護師という新しい国家資格の誕生を契機に、多種多様な職種の方々の仕事のあり方、つながり方を知り、考えられる場になってくれたのではないかと期待しています。獣医師会雑誌の運動企画として始まったオンライン勉強会も毎回多くの参加者がおり、好評なようです。コーディネートの堀北さん、各回のご担当、また進行等にご協力の皆さま、ありがとうございます。

2023年度こそコロナも落ち着いて、対面での企画も行いやすくなるかと期待されます。この数年でオンラインの技術は飛躍的に伸びましたが、それがむしろ良いという点もあれば、逆にやはり対面のほうが良いという点もありますから、振り返ってそれを整理できる1年になってくれたらと思います。

(木村祐哉)

## 2. 報告

### ・2022年 年次大会「多職種連携」

1. 日時:2022年9月17日(土) 13:00~16:30
2. 場所:ヤマザキ動物看護大学 南大沢キャンパス  
(3号館 322 教室)
3. 参加費:無料(参加人数 対面:15名、オンライン:8名)
4. 大会長:木村祐哉(ヤマザキ動物看護大学)
5. 実行委員:石山 大、木村祐哉、友野 悠、花房泰子、堀北哲也、宮下ひろこ、若柳 翼

※獣医療提供体制整備推進協議会及び公益社団法人日本獣医師会が実施する令和4年度獣医療提供体制整備推進総合対策事業における新規獣医師臨床研修促進事業「新規獣医師が職業倫理・関係法令・コミュニケーションスキル等を修得するための技術研修」として開催



### <プログラム>

#### 第1部 パネルディスカッション(13:00~14:50)

各業種から他の職業との繋がり方も含めた仕事内容、職種間連携で助かること、苦勞することなどを紹介いただき、その後、「どんなふうに相談や依頼を受けるか」をディスカッションします(司会:石山 大)。

1. 西村裕子(一般社団法人ひと to ペット):災害医療と動物病院スタッフの視点を踏まえた多職種連携とチーム医療
2. 山内かおり(一般社団法人日本ペットサービス研究会):動物病院スタッフが運営するヘルスケアを目的としたしつけ教室
3. 野間厚志(SIPPO-HAPPO 株式会社):トリマー(グルーマー)で生じるコミュニケーションエラー
4. 伊藤昌範(ルミナント蹄医院) 畜産における獣医師と削蹄師の連携
5. 川村英輔(神奈川県 畜産技術センター普及指導課):家畜ふん尿処理と獣医師
6. 國分玲子(農林水産省動物検疫所):動物検疫業務における多様な関係者とのコミュニケーション

#### 第2部 基調講演(15:00~16:30)オンライン配信

チーム医療でよくみられる相互の価値観のズレや意見対立、人間関係の破綻などの問題に対し、どのように対処するのかというコミュニケーション論を初めて体系化した京極氏に、オンラインでご講演いただきます。

- ・ 京極 真(吉備国際大学 作業療法学科):多職種連携における信念対立説明アプローチ

## <開催報告>

2022年獣医コミュニケーション研究会年次大会のテーマは「多職種連携」。前半は獣医療業界の多様な職種に携わる6名のパネラーの方々のご協力で、それぞれの活動内容や連携事例などが紹介されました。活躍されている現場は異なりますが、人との連携の課題は仕組みやシステム上のことだけでなく、情報共有なども含めコミュニケーションの問題が共通して挙がっていました。実際どのように連携して業務を行っているのか、発表だけでなくパネルディスカッションも行ったことで、日頃はあまり関わる機会が少ない職域での連携の難しさや試みなどを学べる貴重な機会となりました。

後半はオンラインでの基調講演。「多職種連携における信念対立解明アプローチ」というテーマで、京極先生にご講演いただきました。個々人が持つ価値観や考え方の違いによって生じるコミュニケーション上の問題を、信念対立という構造として理解することによって、問題へのアプローチ方法も多様に存在することがわかりました。多職種での連携を実践する場合、個人の価値観だけでなく、職種特有の倫理観や思考の枠組みの中で構築する世界観をどう承認し合い理解するか、柔軟なコミュニケーションを状況に応じて使い分けることが、対立をこじらせずに連携して物事を進める上での大前提なのかもしれません。今回の基調講演はオンラインでLIVE配信もされ、遠方で足を運べなかった方々も参加できるオンラインとリアルが融合する年次大会となり、好評のうちに幕を閉じました。

(宮下ひろこ)

・獣医師会雑誌コラボウェビナー

日付	テーマ	担当
2022年 9月12日	獣医師とリスクコミュニケーション～未来を見据えるーBSE からエキノコックスまでー	吉田 省子(北海道大学)
2022年 9月30日	産業動物臨床のコミュニケーションに関するワークショップ	石山 大(石山生産獣医科)
2022年 10月25日	農場を題材にコミュニケーションを考える	山本 浩通(山本アニマルクリニック)
2022年 11月17日	他者のコミュニケーションをみるー相互作用分析システムRIASー	松井 匠作(日本獣医生命科学大学大学院 獣医保健看護学専攻)
2022年 12月2日	感情とニーズに着目する共感のコミュニケーション	水野 節子(日本福祉大学福祉経営学部 医療・福祉マネジメント学科)
2022年 12月19日	獣医療における Shared Decision Making の可能性	伊藤 優真(Pet Clinic アニホス、帝京大学大学院 公衆衛生学研究科)
2023年 2月28日	心の動きに気づき、働きかける	石井 一功(石井動物病院)
2023年 3月30日*	獣医師ができる支援って何？	今井 泉(泉南動物病院、大阪公立大学獣医臨床センター)

\*:開催予定

### 3. 事務局からのお知らせ

・行事予定

2023年4～9月 総会

2023年8～9月 年次大会

そのほか、新型コロナウイルス感染症の影響により、以前と異なる運営体制となっている動物感謝デーや獣医内科学アカデミーが、元のような状況に変化すれば参加を検討します。

原稿協力している日本獣医師会雑誌の解説・報告原稿「獣医療とコミュニケーション」の連載もまだ続きますので、コラボウェビナーもそれにあわせて可能な範囲で企画予定です。

## ・総会議事録

### 獣医コミュニケーション研究会 2022 年度総会 議事録

2022 年 6 月 5 日 20:00～21:30 於:オンライン

出席者:木村祐哉、石山 大、窪田健太郎、若柳 翼、堀北哲也、松井匠作、白戸綾子、山本浩通、  
今井 泉、工藤智徳、伊藤優真(敬称略、順不同、11 名)

議事録作成者:木村祐哉

#### 1. 事業報告

##### 1) 企画実施

年次大会(9 月 19 日 \*農林水産省補助事業(獣医療提供体制整備推進総合対策事業))の  
開催と、オンライン勉強会 2 件の実施について、木村会長から報告があった。

##### 2) 第 2 号会報(2022 年 3 月 1 日付)の発行

第 2 号の発行について、木村会長より報告があった。

##### 3) 2021 年度決算(資料1)

決算案について木村会長より説明の上、松井監事による監査報告があり、賛成多数により  
承認された。

#### 2. 審議事項

##### 1) 事業計画案

1-1) 年次大会(2022 年 9 月 17 日(土) ヤマザキ動物看護大学 南大沢キャンパス)につい  
て、多職種連携をテーマとし、各職種の連携等についてのディスカッションと、オンライン  
基調講演(京極 真、演題:多職種連携における信念対立解明アプローチ)を計画してい  
ることが木村会長より説明され、進行や時間設定等についての議論があった。

1-2) 従前どおりの方針でオンライン勉強会を継続することについて承認が得られたとともに、  
日本獣医師会雑誌の連載企画と連動したコラボセミナーの可能性について議論があり、  
調整を担っている堀北事務局長が主体となって検討することになった。

1-3) 獣医内科学アカデミーは、新型コロナウイルス感染症の影響で現地開催がこの 2 年間な  
く、企画募集されていないが、次回再開となるようであれば参加を検討する方針が確認さ  
れた。

1-4) 第 3 号会報も継続して行うことが承認された。

## 2) 予算案(資料2)

年次大会の会場費のみ計上し、予算案として承認された。さらに、これまで日本獣医師会の支援事業では、最終的に当会が金銭的負担を負わずに企画実施できているが、その際の費用の動きについて、それぞれ支出と収入として記載していくことで、実際の活動状況を反映していく方針が確認された。これらによる会計業務の増加に対し、手当ての支給の提案があったが、現状として業務負担は軽微であることから、当面は保留し、負担が過剰となるようであれば改めて検討することとなった。

## 3) 任期満了に伴う次期役員の改選

4月18日～5月2日の告示期間中にあった以下8名の候補者について、運営規約第8条の定める定数以内であったことから、「役員選任規定 第3条2項」にもとづき、信任投票を実施した。いずれも賛成多数で信任され、木村運営委員を会長、石山運営委員を副会長とする次期体制について承認された。

運営委員:石山 大、今井 泉、木村 祐哉、窪田 健太郎、中尾 洋一、若柳 翼

事務局:堀北 哲也

監 事:松井 匠作

資料1・2

資料1

獣医コミュニケーション研究会 2021年度 決算報告案

前年度繰越金	¥69,819-
収入	¥13,760-
支出	0-
次年度繰越金	¥83,579-

収支	摘要	決算
収入	繰越金	69,819
	NDK 会合残金	13,760
	計	83,579
支出		
	計	0

繰越金：83,579円

会計監査の結果、収支が適正であったことを認めます。

2022年 5月20日

監査 松井 匠作 

資料2

獣医コミュニケーション研究会 2022年度 予算案

収支	摘要	予算
収入	繰越金	83,579
	計	83,579
支出	2022年大会会場費	9,000
	同 振込手数料	550
	計	9,550

以上

獣医コミュニケーション研究会  
(Japan Association for Veterinary Communication)

通称:全国畜産支援研究会、農場どないすんねん研究会(NDK)

役員名簿(第2期)

会 長	木村 祐哉
副会長	石山 大
運営委員	今井 泉
	窪田 健太郎
	中尾 洋一
	若柳 翼
事務局	堀北 哲也
監 事	松井 匠作

発行日

—2023年3月1日—